

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

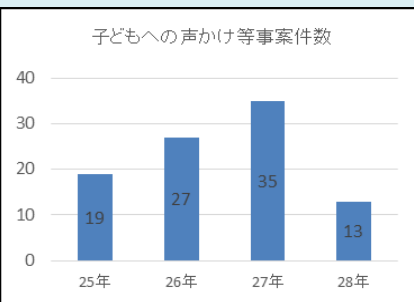
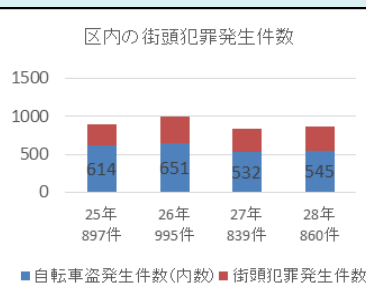
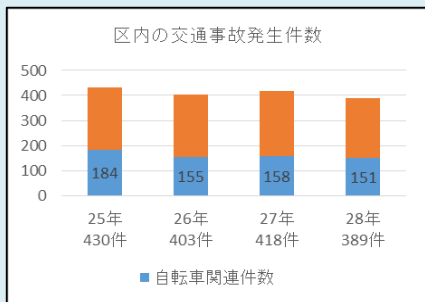
【誰もが安全・安心して暮らせるまち】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

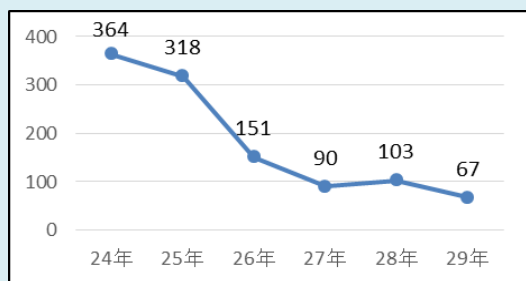
地域団体、関係機関などと連携し、災害や犯罪・事故など区民の生活に影響を与えるさまざまなリスクに対処する仕組みをつくり、総合的な危機管理機能を拡充します。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

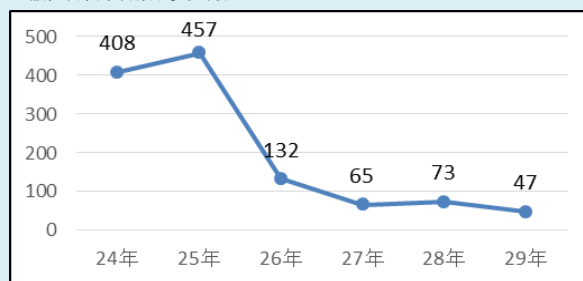
- ・区域が上町台地上にあり、上町断層のずれによる都市直下型地震が発生すると甚大な被害が発生するおそれがあります。
- ・南海トラフ巨大地震は、30年以内に高い確率で発生が想定されています。
上町断層帯地震による被害想定（阿倍野区）
震度：6強～6弱、死者：157人 建物全半壊：12,389棟、避難者総数：12,185人
南海トラフ巨大地震発生確率30年以内に70～80%
震度：6弱、死者：8人 建物全半壊：4,581棟、避難者総数：16,992人
- ・阿倍野区は災害に強く、安心して住めると感じる区民の割合：64.5%（28年度）
- ・防災訓練に参加した区民のうち「今後も参加したい」と思う区民の割合：90.7%（28年度）
- ・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する日ごろの備えが必要だ」と感じた割合：99.8%（28年度）



地下鉄昭和町駅(文の里駅含む)、西田辺駅周辺の放置自転車台数(毎年2月)



近鉄阿部野橋駅、JR天王寺駅、地下鉄天王寺駅、地下鉄阿倍野駅周辺の放置自転車台数(毎年2月)



要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・上町断層帯地震や南海トラフ巨大地震震災による被害想定は甚大なものであり、行政の「公助」だけでは限界があることから、自主防災組織主導での迅速な対応が必要になります。このことから平常時より「自助」「共助」による日ごろの備えなど、地域防災力向上につながる啓発や活動が不可欠であると考えます。
- ・地域の自主防災組織は一定構築されていますが、さらなる活動内容充実や組織力の向上が必要です。
- ・街頭犯罪発生件数は26年度をピークに減少傾向にありますが、主な要因として自転車盗が占めています。
- ・子どもへの声かけ等事案件数は27年度まで増加傾向にありましたが、28年度は減少しました。この状況を維持していくため引き続き子どもの防犯意識を高めることが必要です。
- ・区内の交通事故のうち自転車関連事故の占める割合が自動車事故に次いで多い状況となっています。
- ・区内の主な駅周辺の放置自転車台数について、この数年で大幅に減少しており、近年は下げ止まりの感があつたものの、28年から29年にかけては、再び減少傾向に転じています。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・災害被害を最小限にとどめるためには、地域住民による「自助」「共助」が不可欠であるため、地域住民に対する防災に対しての意識啓発や、災害に対する知識やスキルの習得および向上を図る必要があります。
- ・地域の自主防災組織は一定構築されていますが、さらなる活動内容の充実や組織力の向上を図る必要があります。
- ・災害時の避難場所の認知の向上を図る必要があります。
- ・自主防災組織の新たな担い手となる中学生等の若年者層への意識啓発や、災害に関する知識やスキルの習得および向上が重要です。
- ・避難行動要支援者においては、「自助」による防災対策に限界があるため、「共助」を促進するために行政が支援する必要があります。
- ・街頭犯罪発生件数を減らすため、特に自転車盗に対する啓発などの取組みを強化し、区民の防犯意識を高める必要があります。
- ・子どもへの犯罪を未然に防止するため、周囲に対する見守りの啓発とともに、子ども自身の防犯意識を高めるような啓発などの取組みを強化する必要があります。
- ・近年増加している自転車関連事故を減少させるため、自転車運転マナーを向上させる取組みを推進する必要があります。
- ・放置自転車台数の減少に向けて、自転車利用者に対する啓発などの取組みを推進する必要があります。

自己評価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えて、区民一人ひとりの災害に対する知識やスキルの習得及び防災力のさらなる向上を図るための啓発をはじめ、日中の災害を想定し、中学生等の若年者層への意識啓発や災害に関する知識やスキルの習得の推進を図りました。 ・また、自主防災組織が実施するまちなか防災訓練や女性等の視点を入れた避難所運営マニュアルの策定を通じ、地域の自主防災活動を支援しました。 ・各取組を継続的に実施することにより「災害に強い」まちづくりに寄与できたと考えます。 ・街頭犯罪件数を減少させるためには、最も比率の高い自転車盗への対策が必要であり、警察及び地域と連携した啓発等に継続して取り組みます。 ・交通安全運動期間を中心とした啓発活動、学校園での交通安全教室及び今年度から実施している地域住民に向けた交通安全出前講座は、課題の解決に有効であると考え引き続き実施します。 ・継続的に実施している地域住民と協働した啓発活動等の取組により、放置自転車台数の抑制に寄与できたと考えます。

めざす成果及び戦略 1-1 【災害に強く、誰もが安心して住める安全・安心のまち】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>	地域住民の「自助」「共助」による災害に対する備えができている状態	戦略<中期的な取組の方向性>		区民一人ひとりの防災意識を広く高め、地域の自主防災活動を支援し、「災害に強い」まちづくりを図ります。	
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>	災害に対して「自助」「共助」による備えができていると感じる区民の割合：32年度までに60%以上				
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカムの達成状況		前年度	個別	全体	—
	災害に対して「自助」「共助」による備えができていると感じる区民の割合：43.1%		42.5%	A	A	—
						今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない				—
戦略の進捗状況	a	a：順調 b：順調でない				

具体的取組 1-1-1

【区防災事業(地域防災力の向上)】

28決算額 3,200千円 29予算額 5,966千円 30予算額 3,871千円

計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)
	<p>○災害に備えて、区民一人ひとりの災害に対する知識やスキルの習得及び防災力のさらなる向上を図ります。</p> <p>○災害時に防災活動の中核となる地域防災リーダーの防災活動に必要な訓練や研修を実施します。</p> <p>○地域による「自助」「共助」の災害時対応のスキルの向上や地域コミュニティの醸成を図るため、地域の自主防災組織が実施する「まちなか防災訓練・避難所開設運営訓練」等の地域の取組みを支援します。また、複数地域や他区の地域と同時にまちなか防災訓練を開催します。</p> <p>○日中の災害を想定し、中学生等の若年者層への意識啓発や災害に関する知識やスキルの習得を推進するため、区内の小・中学校で防災教育等(防災研修および訓練)を実施します。また防災ジュニアリーダー制度を安定的、継続的に存続し、自主防災組織の新たな担い手となる人材の発掘を行うとともに、災害活動に必要な訓練や研修を実施します。</p> <p>・地域防災リーダーの訓練・研修等への参加:参加者のべ500人</p> <p>・区内すべての地域でまちなか防災訓練・避難所開設運営訓練を実施:10地域</p> <p>・防災教育等実施学校数:10校以上</p> <p>・防災ジュニアリーダー登録者数:25名以上</p> <p>・防災ジュニアリーダーの訓練・研修への参加者数:のべ50人</p>	<p>・地域防災リーダーに対して「地域防災リーダーとしての自覚」を感じた地域防災リーダーの割合60%以上</p> <p>・防災訓練に参加した区民のうち、「今後の備え等の参考になった」と思う割合60%以上</p> <p>・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する備え等の考え方が変わった」と思った割合80%以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>・地域防災リーダーに対して「地域防災リーダーとしての自覚」を感じた地域防災リーダーの割合が40%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>・防災訓練に参加した区民のうち、「今後の備え等の参考になった」と思う割合が40%未満であれば、事業の開催方法を再構築します。</p> <p>・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する備え等の考え方が変わった」と思った割合の60%未満であれば、事業の開催方法を再構築します。</p>
	<p>前年度までの実績</p> <p>29年度実績(3月末現在)【28年度実績】</p> <p>・地域防災リーダー訓練:のべ363名【のべ557名(全地域)】</p> <p>・地域防災リーダー新任研修:25名(全地域)【85名(全地域)】</p> <p>・まちなか防災訓練・避難所開設運営訓練:10地域実施【10地域実施】</p> <p>・中学校防災訓練:5校実施【5校実施】</p> <p>・中学生防災研修:5校実施【5校実施】</p> <p>・小学校防災訓練・研修:10校実施【10校実施】</p> <p>・出前講座等申請による高等学校・専門学校・日本語学校への防災研修:3回【2校実施】</p>	

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退基準未達成</p>	—	
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>・地域防災リーダーの訓練・研修等への参加:参加者のべ390人</p> <p>・区内すべての地域でまちなか防災訓練・避難所開設運営訓練を実施:10地域</p> <p>・防災教育等実施学校数:11校</p> <p>・防災ジュニアリーダー登録者数:42名</p> <p>・防災ジュニアリーダーの訓練・研修、まちなか防災訓練、各中学校防災訓練・研修への参加者数:のべ77人</p>	—
	<p>業績目標の達成状況</p> <p>・地域防災リーダーに対して「地域防災リーダーとしての自覚」を感じた地域防災リーダーの割合:100%</p> <p>・防災訓練に参加した区民のうち、「今後の備え等の参考になった」と思う割合:98%</p> <p>・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する備え等の考え方が変わった」と思った割合:99.4%</p> <p>① (i)</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退基準未達成</p>	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

28決算額 2,754千円 29予算額 -円 30予算額 3,322千円

計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)
	<p>○中央防災会議による被害想定等の見直しに対応し、当区の地域特性やこれまで地域で培われてきた「つながり」や「きずな」を活かして策定した「各地区防災計画」や、当該計画において各地域で決められた災害時の避難場所(一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)について、住民の方々へ周知します。</p> <p>・各地域で決められた災害時の避難場所(一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)の周知:区のホームページや区広報紙等で年2回以上</p> <p>・まちなか防災訓練・防災研修会・防災関係会議参加者への啓発:のべ10,000人以上</p> <p>○女性等の視点を入れた避難所運営マニュアルの策定</p> <p>・地域別に避難所運営にかかるワークショップを1回以上開催:全地域</p>	<p>・災害時の避難場所(地域で決められた一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)を知っている区民の割合:50%</p> <p>・災害に備えて、「自助(自身、家族)」、「共助(近所、地域)」ともに備えができていていると感じる区民の割合:50%以上</p> <p>・女性目線を入れた避難所運営マニュアルの策定ができた感じる自主防災組織役員の割合:70%以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>・災害時の避難場所(地域で決められた一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)を知っている区民の割合が30%未満であれば、周知方法について、再検討します。</p> <p>・災害に備えて、「自助(自身、家族)」、「共助(近所、地域)」ともに備えができていていると感じる区民の割合が30%未満であれば、啓発・周知方法を再検討します。</p> <p>・女性目線を入れた避難所運営マニュアルの策定になったと感じる自主防災組織役員の割合が50%未満であれば、事業の再構築をします。</p>
	前年度までの実績	<p>29年度実績(3月末現在)</p> <p>各地区地域防災計画を知っている区民の割合を知っている区民の割合:78.34%</p> <p>災害時の避難場所(地域で決められた一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)を知っている区民の割合:84.25%</p> <p>・まちなか防災訓練・防災研修会・防災関係会議参加者への啓発:のべ14,010人</p> <p>【28年度実績】</p> <p>区地域防災計画の周知啓発(ホームページ、区広報紙、防災訓練・防災研修会等)の啓発 区地域防災計画を知っている区民の割合:67.3%</p>

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退基準未達成</p>		
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<p>・各地域で決められた災害時の避難場所(一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)の周知:区のホームページや区広報紙等で周知:年2回</p> <p>・まちなか防災訓練・防災研修会・防災関係会議参加者への啓発:のべ10,425人</p> <p>・地域別に避難所運営にかかるワークショップの開催:30回</p>		
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<p>・災害時の避難場所(地域で決められた一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)を知っている区民の割合:81.1%</p> <p>・災害に備えて、「自助(自身、家族)」、「共助(近所、地域)」ともに備えができていていると感じる区民の割合:43.1%</p> <p>・女性目線を入れた避難所運営マニュアルの策定ができた感じる自主防災組織役員の割合:70.8%</p>	① (i)	
	<p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退基準未達成</p>		
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 1-2 【犯罪や交通事故を防止し、誰もが安心して住める安全・安心のまち】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 区民が区内の安全性が高まったと感じられる状態	戦略<中期的な取組の方向性> 地域や警察等関係機関と連携し、区民の安全を守る取組みを進めます。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 区役所が警察等と連携して行う防犯・交通安全の各種取組みを総合的にみて、街頭犯罪抑止や交通事故防止に役立っていると感じる区民の割合:32年度までに60%以上	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	—	
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体		
	区役所が警察等と連携して行う防犯・交通安全の各種取組みを総合的にみて、街頭犯罪抑止や交通事故防止に役立っていると感じる区民の割合 70.1%	77.9%	A	A	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	—
	A:順調 B:順調でない					
戦略の進捗状況	a	a:順調 b:順調でない				

具体的取組 1-2-1 【安全なまちづくり推進事業】

28決算額 1,040千円 29予算額 1,569千円 30予算額 1,269千円

計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)
	○自転車用ひったくり防止カバーの無料取付け及び、自転車盗難防止ワイヤー錠の配付を行う防犯キャンペーン活動(年12回)、ナンバープレート盗難防止ネジの無料取付けキャンペーン活動(年2回)を実施します。 ○区内市立小学校(10校)の新1年生全員に防犯ブザーを配付します。 ○区役所「地域みまもり隊」職員により、自転車や青色防犯パトロール車での通学路巡回・防犯パトロールを行います。:平日毎日	区役所が警察等と連携して行う防犯啓発活動等の取組みが、区内の街頭犯罪抑止に役立っていると感じる区民の割合60%以上 【撤退基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績 29年度実績(3月末現在)【28年度実績】 ・区民との協働による自転車盗対策を中心とした防犯啓発活動:17回【18回】 ・関係機関と連携し、ナンバープレート盗難防止ネジ取付活動の実施:2回【2回】 ・区内市立小学校新1年生へ防犯ブザー配付【新1年生へ防犯ブザー配付】 ・下校時の通学路巡回【区内市立小学校(10校)区内幼稚園・保育園・保育所(27か所)]:平日毎日【平日毎日】 ・青色防犯パトロール車による巡視【区内全域】:平日毎日【平日毎日】 業績目標(中間アウトカム)29年度達成状況【28年度達成状況】 ・区役所が警察等と連携して行う防犯啓発活動等の取組みが、区内の街頭犯罪抑止に役立っていると感じる区民の割合:77.9%【63.5%】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	・ひったくり防止カバー取付及びワイヤー錠配付を行う防犯キャンペーン活動【16回】 ・ナンバープレート盗難防止ネジの無料取付けキャンペーン活動【3回】 ・区内市立小学校(10校)の新1年生全員に防犯ブザーを配付(4月) ・区役所「地域みまもり隊」職員による通学路巡回・防犯パトロール(平日毎日)	—	
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	区役所が警察等と連携して行う防犯啓発活動等の取組みが、区内の街頭犯罪抑止に役立っていると感じる区民の割合 84.2%	① (i)	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組1-2-2

【子ども110番の家事業】

28決算額 329千円 29予算額 123千円 30予算額 -円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	○イベント等において、「子ども110番の家」の啓発及び協力家庭等の募集を行います：年3回以上 ○子ども自身への周知啓発の取組みとして、小学校入学説明会等での子ども向け啓発チラシを配付します：年10回	「子ども110番の家」の取組みが、子どもへの犯罪の抑止に役立っていると感じる区民の割合60%以上 【撤退基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績 29年度実績(3月末現在)【28年度実績】 ・イベント等における啓発及び協力家庭等募集：3回【6回】 ・小学校入学説明会等での子ども向け啓発チラシの配付：10回【10回】 業績目標(中間アウトカム)29年度達成状況【28年度達成状況】 ・「子ども110番の家」の取組みが、子どもへの犯罪の抑止に役立っていると感じる区民の割合:84.6%【58.2%】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	・イベントで「子ども110番の家」の啓発及び協力家庭等の募集【年6回】 ・「子ども110番の家」子ども向け啓発チラシを小学校入学説明会で配付【年10回】	—
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	「子ども110番の家」の取組みが、子どもへの犯罪の抑止に役立っていると感じる区民の割合 70.2%	① (i)
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組1-2-3

【交通安全運動の推進事業】

28決算額 1,468千円 29予算額 1,815千円 30予算額 1,730千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<p>○春と秋の全国交通安全運動期間に、「交通事故をなくす運動」阿倍野区推進本部による推進大会（街頭啓発等）を実施します。：年2回</p> <p>○阿倍野区身体障害者団体協議会との協働による街頭啓発活動を実施します。：年2回</p> <p>○幼稚園児等を対象とした交通安全教室（年12回以上）、小学校児童を対象とした交通安全教室（年10回）を実施します。</p> <p>○区内中学校1校を対象としたスクエアード・ストレート方式（危険な自転車走行に伴う交通事故の再現スタント等、恐怖を直視させる方式）による交通安全教育を実施します。：年1回</p> <p>○広く区民を対象とした交通安全行事を実施します。：年1回</p> <p>○地域等と連携して交通安全DVDを活用した交通安全啓発等を実施します。</p>	<p>区役所が警察等と連携して実施する交通安全教育等の取組みにより、区民の交通ルール・マナーに関する意識及び理解が向上したと感じる区民の割合60%以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>29年度実績（3月末現在）【28年度実績】</p> <p>・春と秋の全国交通安全運動における推進大会（街頭啓発等）の実施：2回【2回】</p> <p>・阿倍野区身体障害者団体協議会との協働による街頭啓発活動の実施：2回【2回】</p> <p>・小学校児童を対象とした交通安全教室の実施：12回【12回】</p> <p>・幼稚園児等を対象とした交通安全教室の実施：21回【21回】</p> <p>・中学校1校と広く区民を対象としたスクエアード・ストレート方式による交通安全教室：各1回【各1回】</p> <p>業績目標（中間アウトカム）29年度達成状況【28年度達成状況】</p> <p>・区役所が警察等と連携して実施する交通安全教育等の取組みにより、区民の交通ルール・マナーに関する意識及び理解が向上したと感じる区民の割合：80.9%【61.7%】</p>

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③：撤退基準未達成</p>	—	—
	戦略に対する取組の有効性	—	

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>・「交通事故をなくす運動」阿倍野区推進本部による推進大会【2回】</p> <p>・阿倍野区身体障害者団体協議会と協働した街頭啓発活動【2回】</p> <p>・幼稚園児等を対象とした交通安全教室【23回】</p> <p>・小学生を対象とした交通安全教室【11回】</p> <p>・小学生を対象としたスクエアード・ストレート方式による交通安全教室【1回】</p> <p>・広く区民を対象とした交通安全行事【1回】</p> <p>・地域と連携した交通安全出前講座【1回】</p>	—
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>区役所が警察等と連携して実施する交通安全教育等の取組みにより、区民の交通ルール・マナーに関する意識及び理解が向上したと感じる区民の割合 81.9%</p> <p>① (i)</p> <p>①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③：撤退基準未達成</p>	—
戦略に対する取組の有効性	○	<p>○：有効</p> <p>×：有効でないため見直す</p> <p>—：中間アウトカム未設定(未測定)</p>

具体的取組1-2-4

【市民協働型自転車利用適正化事業】

28決算額 234千円 29予算額 455千円 30予算額 441千円

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）
	○区内主要駅周辺で地域や関係機関との協働による啓発活動等を実施します。 ・JR寺田町駅周辺における3区合同啓発活動の実施（年7回）、ゆめまちロードOSAKA寺田町啓発活動の実施（年2回） ・近鉄大阪阿部野橋駅・JR天王寺駅・地下鉄天王寺駅周辺におけるゆめまちロードOSAKAあべの官民協働会議の開催（年3回）および啓発活動の実施（年3回） ・地下鉄昭和町駅（文の里駅含む）・西田辺駅周辺における啓発活動の実施（年12回）および検討委員会の開催（年2回） ・地下鉄阿倍野駅周辺における啓発活動の実施（年12回）		区内の駅周辺（放置自転車禁止区域内）における駐輪場の場所を知っている区民の割合80%以上 【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。 前年度までの実績 29年度実績（3月末現在）【28年度実績】 ・JR寺田町駅周辺における3区合同啓発活動の実施：7回【7回】、およびゆめまちロードOSAKA寺田町啓発活動の実施：2回【2回】 ・近鉄大阪阿部野橋駅・JR天王寺駅・地下鉄天王寺駅周辺におけるゆめまちロードOSAKAあべの官民協働会議の開催：3回【3回】、および啓発活動の実施：2回【3回】 ・地下鉄昭和町駅（文の里駅含む）・西田辺駅周辺における啓発活動の実施：昭和町11回【11回】西田辺8回【11回】、および検討委員会の開催：2回【2回】 ・地下鉄阿倍野駅周辺における啓発活動の実施：12回【11回】 業績目標（中間アウトカム）29年度達成状況【28年度達成状況】 ・区内の駅周辺（放置自転車禁止区域内）における駐輪場の場所を知っている区民の割合：82.1%【80.6%】
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成（見込） (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込） (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成	—	
	戦略に対する取組の有効性	—	○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定（未測定）
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	・JR寺田町駅周辺における3区合同啓発活動の実施（4回、雨天等で中止3回）、ゆめまちロードOSAKA寺田町啓発活動の実施（2回） ・近鉄大阪阿部野橋駅・JR天王寺駅・Osaka Metro天王寺駅周辺におけるゆめまちロードOSAKAあべの官民協働会議の開催（3回）及び啓発活動の実施（3回） ・Osaka Metro昭和町駅（文の里駅含む）・西田辺駅周辺における啓発活動の実施（昭和町駅（文の里駅含む）9回、雨天等で中止3回・西田辺駅10回、雨天等で中止2回）及び検討委員会の開催（2回） ・Osaka Metro阿倍野駅周辺における啓発活動の実施（10回、雨天等で中止2回）		—
	業績目標の達成状況	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	区内の駅周辺（放置自転車禁止区域内）における駐輪場の場所を知っている区民の割合 83.1%	—	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成
	戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定（未測定）

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【高い教育力を持ち、子ども・青少年を健やかに育むまち】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）〈概ね10～20年間で念頭に設定〉

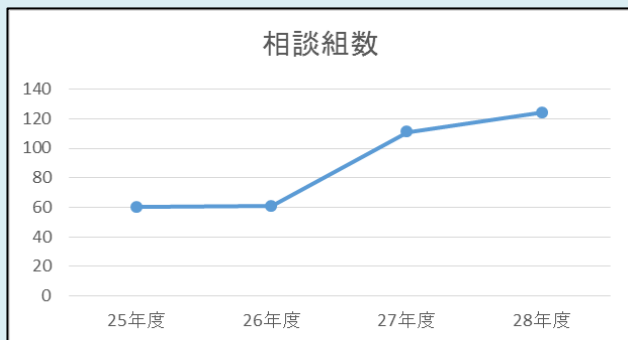
みんなが誇れる教育トップのまちづくり・子育てしやすいまちづくりをめざし、保護者・地域・学校園が連携し、子ども・青少年を健やかに育む取組みを支援します。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・区総体として、学力については全国平均以上の力があり、体力については全国平均をやや下回ります。
- ・学力、体力の向上に加えて、国際理解教育やICTの活用など、それぞれの学校で特色ある学校づくりを進めています。
- ・＜子どもの生活に関する実態調査報告書（阿倍野区版）：平成28年度調査：出典＞（中学2年生の回答）
「困窮度別に見た、学習理解度」について、学校の勉強が『あまりわからない・ほとんどわからない・わからない』と回答した割合：中央値以上：15.4%、困窮度Ⅰ：31.3%※
「授業時間以外の1日あたりの勉強時間」について、『30分より少ない・まったくしない』と回答した割合：中央値以上：18.2%、困窮度Ⅰ：33.7%
「自分の体や気持ちで気になること」について、『①やる気が起きない』『②不安な気持ちになる』『③眠れない』と回答した割合：困窮度Ⅰ：①区37.3%【市33.6%】、②区25.3%【市23.2%】、③区13.3%【市11.7%】

区分	基準
中央値以上	等価可処分所得中央値（本調査では238万円）以上
困窮度Ⅲ	等価可処分所得中央値未満で、中央値の60%以上
困窮度Ⅱ	等価可処分所得中央値の50%以上60%未満
困窮度Ⅰ	等価可処分所得中央値の50%未満

- ・都市化や少子高齢化・核家族化が進むなか、区内の3歳児未満乳幼児（約2,800人）のうち、約8割が家庭内育児と推定されます。
- ・カウンセリング事業専門相談の件数



- ・子ども・青少年を取り巻く環境が大きく変化しているが、子育てが地域の人等に支えられていると感じる保護者の割合が6割を超えています。（出典：大阪市子ども・子育て支援に関するニーズ調査 平成25年度）

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）〈めざすべき将来像と現状に差が生じる要因〉

- ・全体の底上げというよりも、学校ごとに対応する適切な支援が必要です。特に、体力向上についての取組みが求められます。
- ・阿倍野区全体の相対的貧困率は、大阪市24区に比して高い割合にはないものの、他区同様、中央値以上と困窮度Ⅰの生徒では、学習理解度・学習意欲に大きな開きが生じており、困窮度が高まるにつれ、学習理解度・意欲が低くなる傾向にあると言えます。また、貧困世帯の子どもたちにかかるストレス等も大きく出ていると考えられます。
- ・核家族の増加により地域とのつながりや交流の機会が減少傾向にあります。
- ・家庭内で子育てを行う保護者や、発達が気になる子を持つ保護者が、相談を行うため専門相談のカウンセリング件数が増えています。
- ・現状では、地域活動を行うにあたって必要な人材等が十分ではありません。
- ・地域コミュニティの活性化のための事業の充実を図る必要があります。

課題〈上記要因を解消するために必要なこと〉

- ・大阪市トップクラスの教育環境を維持するとともに、さらに全市のモデルとなることをめざすため、近年急速に進んでいるグローバル化の中で未来の日本を支える現役・次世代への支援（グローバル人材の育成）を行う一方、地域とのつながりのある学校教育を展開することが重要と考えます。
- ・困窮度が高まるにつれ、学習理解度・意欲が低くなる傾向にあるため、貧困世帯等の中学生にターゲットを絞り込み、当区が抱える子どもの貧困問題の解決を図っていく必要があります。
- ・子どもの生命・身体の安全が損なわれたり、孤立したりすることのないよう、子どもたちを健やかに育み、地域全体で教育に取り組むことが大切です。安心して教育を受けることのできる、セーフティネットの構築が課題となっています。
- ・家庭内で子育てを行う保護者の社会からの孤立を防止し、子育てによるストレスを軽減する必要があります。
- ・子ども・青少年の健やかな成長を支えるために、地域の諸活動が不可欠であると考えます。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- ・大阪市トップクラスの教育環境を維持するとともに、さらに全市のモデルとなることをめざすため、グローバル人材育成支援事業を実施し、多くの児童の英語に対する興味関心が高まりました。また、学校現場で地域人材等を活用する一助となる学校支援ボランティア人材募集事業や教員サポート講習会を実施し、一定の成果を得ました。
- ・子どもの生命・身体の安全が損なわれたり、孤立したりすることのないよう、不登校児などの相談支援事業に取組んだ結果、相談者の多くが不安感・負担感の軽減が図られました。また、保育施設等情報フェアを開催し子育て世代への情報提供を行うなどにより、地域全体で子育て家庭に対する支援ができるよう取組みました。
- ・子育てカウンセリング事業としての就学前勉強会はより多くの保護者の不安軽減を図るため、参加人数を増やし開催回数を全6回としました。
- ・青少年指導員や青少年福祉委員による青少年の健全な育成を図るための諸活動を支援することにより、継続的な青少年の非行防止が図られていると考えます。

めざす成果及び戦略 2-1 【全市のモデルとなるような学校教育の推進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 学校の特色づくりが推進され、子どものチャレンジがサポートされていると保護者が感じている状態	戦略<中期的な取組の方向性> 保護者、地域等と連携して、小中学校の蓄積・特色を活かしながら、さらなる学力、体力向上をめざした全市のモデルとなるような学校の特色づくりと、すべての子どもがそれぞれの夢を実現するために、たくましくチャレンジすることをサポートします。幼児期等からの早期の家庭教育支援に取り組み、子どもの自尊感情を高め、学力・人間性・健康のバランスに留意し、人とつながる力をつけられる教育をサポートします。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 特色ある学校の取組みが行われていると感じる保護者の割合:32年度までに60%以上 子どものチャレンジがサポートされていると感じる保護者の割合:32年度までに60%以上	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題	※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況		前年度	個別	全体
	特色ある学校の取組みが行われていると感じる保護者の割合 81%		81%	A	A
	子どものチャレンジがサポートされていると感じる保護者の割合 80%		72%	A	A
			A:順調 B:順調でない		
戦略の進捗状況	a	a:順調 b:順調でない	今後の対応方向		
			※有効性が「イ」の場合は必須		

具体的取組2-1-1 【グローバル人材育成支援事業】

28決算額 4,025千円 | 29予算額 4,372千円 | 30予算額 4,246千円

計画	取組内容 ○ネイティブスピーカーとのふれあいにより、授業では体験の少ない英語に触れる場を提供することにより、語学力の向上及び異文化への理解を促進します。 ・小学生を対象とした区役所等における英語コミュニケーションスペースの開設:6回以上 ・小学生を対象とした英語講座等の開催:全10小学校 ・区内小学3年生～中学3年生を対象とした英語スピーチコンテストの開催:1回	業績目標(中間アウトカム) 「英語に対する子どものチャレンジがサポートされていると感じる、事業に参加した児童・生徒の保護者の割合60%以上」 【撤退基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績 29年度実績【28年度実績】 ・英語コミュニケーションスペースの開設:6回【全6回】 ・小学生を対象とした英語講座等:9小学校10回【全10小学校】 ・小学校教員を対象とした英語ワークショップ:全10小学校【全10小学校】 ・英語スピーチコンテストの開催:全1回【全1回】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績 ・英語コミュニケーションスペースの開設:6回 ・小学生を対象とした英語講座等:10小学校19回 ・英語スピーチコンテストの開催:1回	課題	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況 「英語に対する子どものチャレンジがサポートされていると感じる、事業に参加した児童・生徒の保護者の割合 94.4%」	① (i)	改善策
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組2-1-2

【学校園支援(学校支援ボランティア人材募集、教員サポート講習会等)】

28決算額 0千円 29予算額 597千円 30予算額 709千円

計画	取組内容	業績目標 (中間アウトカム)
	○区教育行政連絡会等でくみ取った意見を受け、学校支援などを行うボランティアの募集を行い、各学校へ紹介する学校支援ボランティア人材募集事業を実施します。 ○各教員が自校園の課題解決に主体的に取り組むことを支援するため、学校ごとの個別・地域課題に応じてテーマを決定したうえで、講習会を開催し、外部の専門家等を講師に招いて技術・知識の習得等を行います。	特色ある学校の取組みを進めていくうえで、学校支援ボランティア人材募集が役立っていると回答する学校の割合:80%以上 特色ある学校の取組みを進めていくうえで、教員サポート講習会が各校の個別・地域課題の解決に役立っていると回答する学校の割合:80%以上 【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績
		29年度実績【28年度実績】 学校支援ボランティア人材募集(55人)、教員サポート講習会(16回開催) 【学校支援ボランティア人材募集開始(29年3月～)】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	・8小学校、3中学校から計36の人材募集のエントリーがあり、広報掲示板やホームページ等で周知し募集を行った。 ・計70名から申込みがあり、その都度学校へ紹介を行っている。学校との面接を経て、ボランティア従事が決まったの登録者は延べ10名。 ・教員サポート講習会を11校14回開催した。	—	
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	・特色ある学校の取組みを進めていくうえで、学校支援ボランティア人材募集が役立っていると回答する学校の割合 100% ・特色ある学校の取組みを進めていくうえで、教員サポート講習会が各校の個別・地域課題の解決に役立っていると回答する学校の割合 100%	① (i)	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成	—	
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組2-1-3

【阿倍野区教育会議、阿倍野区教育行政連絡会の運営】

28決算額 243千円 29予算額 314千円 30予算額 398千円

計画	取組内容	業績目標 (中間アウトカム)
	○分権型教育行政を推進するに際し、学校園・教育コミュニティの状況と進捗をモニタリングし、その状況に応じて学校園の教育活動をサポートするため、阿倍野区教育会議及び阿倍野区教育行政連絡会を開催します。 ・阿倍野区教育会議の開催:年6回以上 ・阿倍野区教育行政連絡会の開催:年20回程度(小学校の部10回、中学校の部10回)	教育会議等での意見・提案を反映した施策・事業1事業以上 【撤退基準】 上記目標が達成できなければ、会議運営手法を再構築します。
		前年度までの実績
		29年度実績【28年度実績】 ・阿倍野区教育会議:9回開催【5回開催】 ・阿倍野区教育行政連絡会:20回開催(小学校の部11回、中学校の部9回)【12回開催(小学校の部6回、中学校の部6回)】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	・阿倍野区教育会議及び学校見学等での意見交換会の開催:9回 ・阿倍野区教育行政連絡会の開催:12回(小学校の部5回、中学校の部7回) ・公開授業や学校行事の見学の実施:11回	—	
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	教育会議等での意見・提案を反映した施策・事業 4事業	① (i)	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成	—	
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組2-1-4

【民間事業者を活用した課外学習支援事業】

28決算額 - 円 29予算額 727千 円 30予算額 660千 円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	○区内在学の中学生を対象に、放課後の学校施設等に、民間事業者を活用した課外学習の場を設置し、子どもの習熟に応じた学力向上及び学習習慣の形成を図ります。 また、塾代助成事業を利用することで、受講者の塾代負担の軽減を図ります。 ・実施場所：区内1か所から2か所に増設	学習した教科について、参加前に比べ、学校の授業がわかるようになったと回答した割合60%以上 【撤退基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。 前年度までの実績 ・平成29年7月から松虫中学校で開講 ・16名受講（定員30名）（平成30年3月末時点）※最大22名受講
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成	—
	戦略に対する取組の有効性	○: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)
自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	平成30年4月から区内2か所(松虫中学校及び文の里中学校)において、民間事業者を活用した課外学習支援事業を実施しました。 ・松虫中学校: 毎週月・木曜日、16名受講[定員30名程度](31年3月末時点)※最大20名受講 ・文の里中学校: 毎週火・金曜日、26名受講[定員40名程度](31年3月末時点)※最大39名受講	—
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	学習した教科について、参加前に比べ、学校の授業がわかるようになったと回答した割合64%	① (i)
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成	—
	戦略に対する取組の有効性	○: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組2-1-5

【こどもの「生きる力」を育む事業】

28決算額 - 円 29予算額 - 円 30予算額 4,850千 円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	○「貧困の連鎖」を断ち切るため、生活困窮世帯等の中学生を対象に学習支援を行い、高校進学に必要な基礎学力を形成するとともに、社会体験・キャリア教育等を提供することで、こどもの「生きる力」を育み、将来における一人ひとりの社会的・職業的自立を図ります。 ・学習支援: 夜間に週2回、1コマ2時間程度、学生スタッフ等による生徒の習熟度の応じた少人数制の個別指導 ・社会体験・キャリア教育: 月1回程度、地域等でのボランティア・職業体験やゲストスピーカーによる講話を実施	・参加生徒の学力(点数)10%以上の向上 ・参加前に比べ、「授業時間以外の1日あたりの勉強時間が増えた」と回答した生徒の割合60%以上 【撤退基準】 参加生徒の学力向上が10%未満であった場合、参加生徒が定員の半数(10人)に満たない場合、事業の再構築を行います。 前年度までの実績 平成30年度新規事業
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成	—
	戦略に対する取組の有効性	○: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)
自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	平成30年7月から区内において、こどもの「生きる力」を育む事業を実施しました。 ・学習支援: 毎週火・木曜日18:30~20:30実施、20名参加[定員20名程度](31年3月末時点) ・社会体験・キャリア教育: 月1回程度実施(7/19、7/26、9/6、9/20、10/30、11/1、12/25、1/31、2/26)	—
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	・参加生徒の学力(点数)39%向上 ・参加前に比べ、「授業時間以外の1日あたりの勉強時間が増えた」と回答した生徒の割合100%	① (i)
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成	—
	戦略に対する取組の有効性	○: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 2-2 【子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育める環境づくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 身近な地域の中で、安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境があると感じられる状態	戦略<中期的な取組の方向性> 子育て世代が安心して子育てができるよう様々なニーズに対応し、きめ細やかな取組を行い、子ども・青少年の健やかな成長を支える地域の取組を支援します。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境があると感じる区民の割合：32年度までに70%以上	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題	※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体	
	安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境があると感じる区民の割合：72.2%	70.3%	A	A	—
					今後の対応方向
A：順調 B：順調でない					—
戦略の進捗状況	a	a：順調 b：順調でない			

具体的取組2-2-1 【子育てカウンセリング事業】

28決算額 1,608千円 29予算額 2,476千円 30予算額 2,333千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<ul style="list-style-type: none"> ○専門家によるカウンセリングや助言等の実施により発達が気になる子の支援を充実させるとともに保護者の仲間づくりを支援します。 ・ピア・カウンセリング：月1回 ・運動サポート：月1回 ・ふれあい体験「びああべのん」：週1回 ・保護者向け就学前勉強会：年6回 ・専門家（作業療法士・理学療法士・言語聴覚士）による助言指導：月4回程度 ・ペアレント・トレーニング：全6回 	ストレス軽減が図られたと回答した相談者の割合60%以上 【撤退基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。 前年度までの実績 29年度実績【28年度実績】 ・ピア・カウンセリング：月1回、年12回【月1回、年12回】 ・運動サポート：月1回、年12回【月1回、年12回】 ・ふれあい体験「びああべのん」：週1回、年44回【週1回、年45回】 ・就学前勉強会：年6回4/26、5/31、7/13、9/14、10/18、2/7開催【5回：4/20、7/14、9/21、10/19、2/15】 ・専門相談：OT14回、PT13回、ST13回【OT年14回、PT年12回、ST年14回】 ・ペアレント・トレーニング：全6回 5/10、5/24、6/7、6/21、7/5、9/6【6回：5/18、6/1、6/15、6/29、7/13、10/5】 業績目標（中間アウトカム）29年度達成状況【28年度達成状況】 ・ストレス軽減が図られたと回答した相談者の割合：90%【90%】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成			—
	戦略に対する取組の有効性	—	○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績	課題	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアカウンセリング：月1回 ・運動サポート：月1回 ・ふれあい体験「びああべのん」：週1回 ・保護者向けの就学前勉強会：全6回 ・専門相談（作業療法士・理学療法士・言語聴覚士）による助言指導相談 OT：年14回、PT：年12回、ST：年14回 ・ペアレントトレーニング（就学前）全6回 ・ペアレント・トレーニング（学齢期）全5回 		—	
	業績目標の達成状況			
	カウンセリングや助言を受け、ストレスが軽減したと回答した相談者の割合90%	① (i)	改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成			—
	戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)	

28決算額	613千円	29予算額	927千円	30予算額	733千円
-------	-------	-------	-------	-------	-------

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）	
	<p>○地域で子育て家庭に対する支援ができるよう取組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講演会：年1回 ・子育て支援者講座：年4回 ・親子フェスタ(つながりフェスタ)の開催：年1回 ・「子育てミニニュース」の発行：月1回、3,000部 ・アドバイザー連絡会議：年3回程度 ・3か月検診等で子育てマップを配布 		<p>親子フェスタ等の参加者へのアンケートで、「いろいろな子育て支援事業が行われているが、利用しやすいと感じている」と回答した人の割合40%以上</p> <p>【撤退基準】 上記目標が20%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>29年度実績【28年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講演会：2/13開催【3/7開催】 ・子育て支援者講座：5/19、6/29、12/15、2/13開催【5/24、6/16、12/13、3/7開催】 ・親子フェスタ(つながりフェスタ)：10/28開催【10/29開催】 ・子育てミニニュースの発行：月1回、3,000部【月1回、3,000部発行】 ・アドバイザー連絡会議の開催：2回 5/19、12/15開催【2回 4/5、9/13開催】 ・のほほんレター(子育て情報の手引き)発行：8月 1,200部【8月 1,200部】 	
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<p>①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③：撤退基準未達成</p>			
戦略に対する取組の有効性		—	<p>○：有効</p> <p>×：有効でないため取組を見直す</p> <p>—：中間アウトカム未設定(未測定)</p>	
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て講演会の開催：年1回(3/5) ・子育て支援者講座の開催：年4回(5/22,7/3,12/18,3/5) ・親子フェスタ(つながりフェスタ)の開催：年1回(10/27) ・アドバイザー会議の開催：2回(5/30,7/12) ・子育てミニニュースの発行：月1回、3,000部 ・あべの子育てマップ(子育て情報)発行：8月、1,000部 ・保育施設等情報フェア：年1回(9/1) 		—	
	<p>業績目標の達成状況</p> <p>子育て支援関係のイベントの参加者で「いろいろな子育て支援事業が行われているが、利用しやすいと感じている」と回答した人の割合47%</p>		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
<p>①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③：撤退基準未達成</p>		① (i)	—	
戦略に対する取組の有効性		○	<p>○：有効</p> <p>×：有効でないため見直す</p> <p>—：中間アウトカム未設定(未測定)</p>	

28決算額 4,302千円 29予算額 4,035千円 30予算額 4,028千円

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）
	○学校になじめない等の悩みを持つ18歳以下の子どもとその保護者に対する相談業務を行います。 ・2名の心理相談員（臨床心理士等）が学校やこども相談センター等とより強化連携をし、子どもの社会参加の促進と保護者の負担の軽減を図ることができるよう専門的な相談をします。 ・窓口開設日：週4日 ○区役所内に子どもの居場所を開設しています。 ・居場所開設：週1日		不安感・負担感の軽減が図られたと回答した相談者等の割合80%以上【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。 前年度までの実績 29年度実績【28年度実績】 ・臨床心理士等の資格を有する心理相談員2名で相談業務を週4日、居場所開設を週1日 人権講演会の開催：30年1月12日【11/18開催】 業績目標（中間アウトカム）29年度達成状況【28年度達成状況】 ・不安感・負担感の軽減が図られたと回答した相談者等の割合：90%【65%】
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	—	
自己評価	取組実績	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	① (i)	

具体的取組2-2-4

【阿倍野区食育推進ネットワークづくり事業】

28決算額 47千円 29予算額 117千円 30予算額 114千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	○阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会の開催：年2回 ○阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会担当者向け研修会：年1回 ○阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会に対する物品貸出：通年 ○子どもの養育者に対する食育講座：年1回 ○適塩生活実践に向けた情報発信：ネットワーク関係者に年2回、乳児健診時にパネル展示	食育講座等に参加したこどもの養育者のうち、食生活や食習慣の改善に取組もうとする者の割合50%以上 【撤退基準】 上記目標が30%未満であれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績 29年度実績【28年度実績】 ・連絡会の開催：2回【2回】 ・担当者向け研修会：1回【1回】 ・物品貸出：2回【3回】 ・講演会：1回【1回】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	○阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会の開催：年2回 ○阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会担当者向け研修会：年1回 ○子どもの養育者に対する講演会：年1回 ○阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会に対する物品貸出：通年 ○適塩生活実践に向けた情報発信：ネットワーク関係者に年2回	—	
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	食育講座等に参加したこどもの養育者のうち、食生活や食習慣の改善に取組もうとする者の割合：100%	① (i)	
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組2-2-5

【乳幼児発達相談強化事業】

28決算額 3,249千円 29予算額 3,542千円 30予算額 3,408千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	○乳幼児を対象とした心理相談、発達相談を行います。 ・乳幼児健診時等：月6回 ・4.5歳児発達相談：年6回 ・乳幼児を対象とした事業と連携した相談業務：随時 ・支援者向け研修：年1回 ・保育所、幼稚園での新規連携先含め巡回心理相談の実施：12か所	専門機関につなぐ必要のある相談者のうち、実際つながった割合が80%以上 【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績 29年度実績【28年度実績】 ・心理相談6回/月【6回/月】(1歳半児健診、3歳児健診、発達相談、2歳児教室2回/月)、育児教室 利用者数：535人【307人】 ・4.5歳児発達相談13回【14回】 利用者数：31人【33人】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	・心理相談6回/月(1歳半児健診、3歳児健診、発達相談、2歳児教室2回/月、育児教室) 利用者数：626人 ・4.5歳児発達相談 12回 利用者数：24人 ・乳幼児を対象とした事業と連携した相談業務：随時 ・保育所、幼稚園での巡回心理相談の実施：27回	—	
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	専門機関につなぐ必要のある相談者のうち、実際つながった割合80%	① (i)	
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組2-2-6

【青少年指導員活動・青少年福祉委員活動事業】

28決算額 1,908千円 29予算額 2,031千円 30予算額 2,031千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	○区青少年指導員協議会及び地域の各青少年指導員協議会（10協議会）、区青少年福祉委員協議会による、青少年の健全な育成を図るための諸活動に対して、交付金を交付します。	区青少年指導員協議会及び10地域の各協議会、区青少年福祉委員協議会が交付金を活用し各事業を実施 【撤退基準】 事業を実施されない協議会があれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績 交付金を活用した協議会：29年度実績【28年度実績】 ・区青少年指導員協議会：1協議会【1協議会】 ・各地域の青少年指導員協議会：10協議会【10協議会】 ・区青少年福祉委員協議会：1協議会【1協議会】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	—	

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	・区青少年指導員協議会及び地域の各青少年指導員協議会（10協議会）、区青少年福祉委員協議会への交付金の交付を通じて、青少年の健全な育成を図るための諸活動を支援した。	—
	業績目標の達成状況	
区青少年指導員協議会及び10地域の各協議会、区青少年福祉委員協議会が交付金を活用し各事業を実施	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成		—
戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組2-2-7

【助産師による相談事業】

28決算額 -円 29予算額 -円 30予算額 183千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	○妊娠期からの切れ目のない相談支援を充実させるため、周産期ケアの専門家である助産師による専門相談を開設します。 ・年12回(月1回 3か月児健診に併設) ○産前、産後の育児不安を解消するため、助産師の監修による産前・産後のケアに関する情報を発信します。	・助産師専門相談の結果、「育児不安が軽減されたと感じる」と回答した人の割合が50%以上 【撤退基準】 ・上記項目について30%未満の場合は事業を再構築します。
		前年度までの実績 平成30年度新規事業

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	○	

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	・助産師専門相談12回 相談者数73人 満足度評価(大変満足・満足)91.4% ・情報発信事業6回	・平均1開設あたり6人の相談があり、事業の満足度も高く、また育児不安の軽減に対しても8割以上の効果が認められており、継続実施が求められます。 ・一方、1開設あたり9人を超えると時間内に相談が終了しないこと、卒乳など保健師の対応で十分解決が図れる事例が予約に含まれていることが課題です。
	業績目標の達成状況	
助産師専門相談の結果、「育児不安が軽減されたと感じる」と回答した人の割合82.4%	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成		・1開設あたり8人を越えないよう相談内容を精査し、卒乳については保健師対応を行うよう実施体制の見直しを図りますが、今後、更に相談件数が増加する場合には、開設日数の増などの検討が必要です。
戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

【地域で支えあい、誰もが幸せに暮らせるまち】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

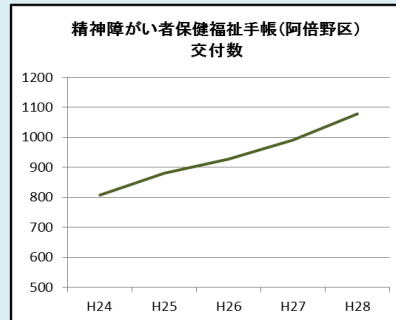
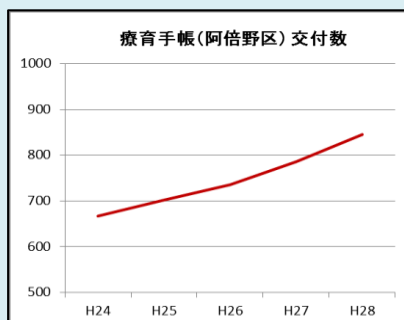
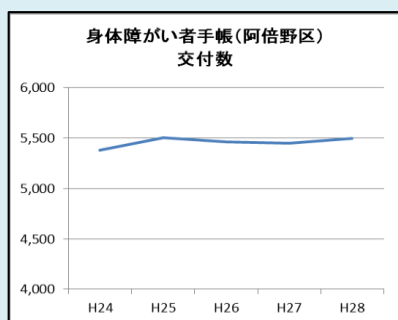
阿倍野区に暮らす、すべての人々が住みなれた地域で、お互いが支えあい、いつまでも幸せに暮らせるまちをめざします。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・地域別人口（平成27年度国勢調査）

	人口	子ども(15歳未満)		高齢者(65歳以上)		高齢者(75歳以上)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
阿倍野区	107,626	13,312	12.5%	27,171	25.5%	13,745	12.9%
高松	10,002	1,085	11.1%	2,648	27.0%	1,304	13.3%
常盤	16,700	2,517	15.3%	3,232	19.6%	1,630	9.9%
金塚	6,097	581	9.6%	1,713	28.4%	837	13.9%
文の里	7,777	956	12.5%	1,719	22.4%	857	11.2%
王子	9,446	885	9.5%	2,585	27.8%	1,309	14.1%
丸山	7,302	931	12.8%	1,977	27.3%	991	13.7%
長池	11,872	1,233	10.6%	3,192	27.4%	1,590	13.6%
阿倍野	8,621	1,025	11.9%	2,493	29.0%	1,234	14.3%
晴明丘	17,008	2,329	13.7%	4,373	25.8%	2,234	13.2%
阪南	12,801	1,770	14.0%	3,239	25.6%	1,759	13.9%
大阪市	2,691,185	295,298	11.2%	668,698	25.3%	317,893	12.0%

・手帳交付数



・「あべの 安全・安心 見守り、支え合い隊」事業

災害時等要援護者名簿登録申請数累計(平成29年9月末) 5,277件

災害時等要援護者名簿提供地域(平成29年9月末) 10地域

・認知症高齢者等見守りネットワーク事業

登録者数(平成29年8月末) 78件

協力者数(平成29年8月末) 179件

・平成27年度の死因別死亡率(人口10万対)において悪性新生物(がん)の割合が310.3で全国平均(291.4)より高い。

・平成27年度、40歳以上の脂質異常症の割合は、男43.3%、女54.9%である。(市:男43.5%、女55.2%)

・平成27年度の特定健診受診率は、24.1%(市:21.6%、府:29.9%、国:36.3%)特定保健指導修了者割合は1.4%(市:2.3%、国:23.6%)

特定健康診査受診率の年次推移(男)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
国	28.6%	29.7%	30.3%	31.4%	32.3%	
大阪府	23.9%	24.4%	24.6%	25.7%	26.5%	
大阪市	17.5%	17.4%	17.4%	18.6%	19.3%	19.7%
阿倍野区	18.5%	18.5%	19.1%	20.2%	21.7%	21.7%

特定健康診査受診率の年次推移(女)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
国	36.3%	37.3%	37.8%	38.9%	39.8%	-
大阪府	30.2%	30.6%	30.8%	32.2%	32.8%	-
大阪市	22.3%	22.1%	21.7%	23.1%	23.6%	24.0%
阿倍野区	23.0%	23.0%	22.4%	24.8%	26.0%	26.0%

・平成27年度、40歳以上の脂質異常症の割合は、男43.3%、女54.9%である。(市:男43.5%、女55.2%)

・あべのウォークを知っていると答えた区民の割合:39.7%(28年度)

・運動習慣ありと答えた区民の割合:35歳以上で40.8%(28年度)

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）〈めざすべき将来像と現状に差が生じる要因〉

- ・区内の高齢者人口の割合は高く、また各種手帳を持つ支援を必要とする方々は増加していますが、現状の公的サービスだけでは多種多様なニーズを持つ一人ひとりの生活を支えることは困難な状況にあります。
- ・地域住民が互いに見守り支えあうことが必要であるが、都市化・核家族化の進展により、地域コミュニティが希薄化しています。
- ・健康寿命を延伸させるためには、生活習慣病の改善・早期発見、早期治療が必要といわれています。40歳以上の脂質異常が高いことから、運動習慣を持つ区民を増やす必要があります。また、特定健診受診率や特定保健指導修了者の割合が府や全国平均より低いため高める必要があります。

課題〈上記要因を解消するために必要なこと〉

- ・区の福祉的ニーズが年々増加、「複雑化・多様化・深刻化」しています。
- ・区内各地域で異なる福祉課題を把握し、それぞれのニーズに合った公的サービスに迅速につなげ、幸せに暮らせるように地域でお互いが支えあう福祉コミュニティの構築が急務となっています。
- ・高齢化の進展に伴い増加が見込まれる認知症高齢者に向けた、見守りや支援の体制づくりが今後の重要な課題となっています。
- ・さまざまな課題が重複する福祉ニーズに対応するため、関係機関のつながりを進める必要があります。
- ・特定健診の受診率を高め、早期発見、早期治療につなげる必要があります。
- ・区民に対して健康増進や生活習慣病予防、疾病に関する正しい知識の普及・啓発を行うとともに健康づくりの一環である運動「あべのウォーク」等を行うことで健康づくりの機運を高める必要があります。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- ・地域住民が主体となった「地域福祉」の推進において地域懇談会が開催されるなど具体的な活動が実施されています。
- ・地域福祉コーディネーターを軸として、地域の要援護者の把握や見守りボランティア活動を継続的に取り組んだことにより、要援護者の見守り体制の充実、地域で世代を超えて相互に支え合う体制の拡充・強化が更に図られたと考えます。
- ・特定健診の受診率は横ばいであり、更なる受診率向上に向けた取り組みを進めていく必要があります。
- ・あべのウォークは区民への周知が進んでおり、運動の習慣化にも一定の効果があったと考えます。今後も引き続き、あべのウォークに参加していない年齢層への普及啓発、情報提供を重点的に行う必要があります。

めざす成果及び戦略 3-1 【地域でお互いが支えあい、幸せに暮らせる仕組みづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間に念頭に設定>	地域住民が主体となり、地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる状態	戦略<中期的な取組の方向性>	地域における福祉課題を地域が把握し、解決できる仕組みづくりの構築に向けた支援に取り組みます。また、阿倍野区で地域福祉活動を進める団体や福祉関係機関などと連携し、地域でお互いが支えあう福祉コミュニティづくりを進めます。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>	地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる区民の割合：32年度までに60%以上		

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題	※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体	—	
	地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる区民の割合：33.0%	18.1%	A	A	今後の対応方向	※有効性が「イ」の場合は必須
	A:順調 B:順調でない				—	
戦略の進捗状況	a	a:順調 b:順調でない			—	

具体的取組3-1-1 【「あべの安全・安心・見守り、支え合い隊」事業】

28決算額 14,247千円 | 29予算額 14,451千円 | 30予算額 14,808千円

計画	取組内容	○要援護者の実態把握から地域の福祉課題やニーズの把握を行い、地域自らが見守り体制等を構築し、新たなネットワークづくりができるよう支援します。 また、認知症高齢者への見守りについても、地域での取組みを支援していきます。 ・要援護者名簿への登録者累計数：5,500人以上 ・認知症サポーターへ向けた研修・講演会等の実施：3回以上	業績目標（中間アウトカム）	要援護者本人やその家族等に対するアンケートにおいて「地域などの見守りにより安全・安心を感じるようになった」と感じる方の割合70%以上【撤退基準】 上記目標が50%未満であれば、事業を再構築します。
			前年度までの実績	29年度実績【28年度実績】 ・要援護者名簿累計 5,665件【4,938件】 ・見守り訪問ボランティア活動 49,069回【45,843回】

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成	—	—	—
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績	・要援護者名簿登録者数：4,392件(うち新規登録者数576件、転出等による削除数437件) ・見守り訪問ボランティア活動：50,743回 ・認知症サポーターへ向けた研修・講演会等の実施：4回	課題	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	要援護者本人やその家族等に対するアンケートにおいて「地域などの見守りにより安全・安心を感じるようになった」と感じる方の割合 80%	改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
		①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成	① (i)	—
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

28決算額	235千円	29予算額	438千円	30予算額	430千円
-------	-------	-------	-------	-------	-------

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<p>○平成28年9月末に策定した「阿倍野区地域福祉計画」の意義や取り組み等を地域へ浸透させ、「地域福祉」の推進に向けた体制づくりを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における地区懇談会等意見交換会の開催：10回 ・地域福祉イベント等における広報活動：2回以上 	<p>地区懇談会等の参加者が、地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる割合50%以上</p> <p>【撤退基準】 上記目標が30%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>29年度実績【28年度実績】 意見交換会：10回（4地域9回、全地域1回）【3地域 3回】 研修会の開催：2回【1回】 地域福祉イベント等における広報活動：5回【2回】</p>

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	— ○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における地区懇談会等意見交換会の開催：8回 ・地域福祉イベント等における広報活動：4回 	—
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>地区懇談会等の参加者が、地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる割合 77.8%</p> <p>① (i)</p> <p>①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成</p>	—
戦略に対する取組の有効性	○ ○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略 3-2 【区民との協働による健康づくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 区民が健康づくりに取り組めている状態		戦略<中期的な取組の方向性> 区民一人ひとりの健康意識を高め、主体的に健康づくりに取り組めるよう支援します。	
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 運動習慣がある35歳以上の区民の割合:32年度までに40%以上			
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 運動習慣については18～34歳で30.5%、35～64歳で24.5%、65歳以上で46.2%となっており、若年層での運動の習慣化が十分でないことが課題です。	
	アウトカムの達成状況		前年度	個別
	運動習慣がある35歳以上の区民の割合:35.2% (29年度より5%下がったものの、28年度(27.8%)より7.4%伸びていることから、アウトカムの達成状況は順調と判断)		40.2%	A
戦略の進捗状況	a	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 今後は、若年層への運動習慣化を促進するため、これまでのウォーキングイベントや子育て中の母親に向けた教室だけでなく、大阪府の健康マイレージを活用するなどICTを活用した健康づくりを促進します。		

具体的取組3-2-1 【区民との協働による阿倍野区健康づくり推進事業】

28決算額 92千円 29予算額 231千円 30予算額 216千円

計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム) ウォーキング大会参加者のうちウォーキング大会が運動の習慣化につながると答えた方の割合50%以上 【撤退基準】 30%未満であれば、事業を再構築します。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーキングイベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング大会:年3回 ・あべのちょこっとウォーク:年7回(各老人クラブ連合会との協働) ・ウォーキングマップの配付 ○ウォーキングイベントの企画・運営等を担うサポーターの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングサポーター育成講座:年1回/(2)ウォーキングサポータースキルアップ講座:年2回 ○特定健診、がん検診、骨量検査受診者数の増加を目的とした活動 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診時の受診勧奨 ・広報誌・ホームページへの掲載 ・各種健康講座での周知 		前年度までの実績 29年度実績【28年度実績】 ・ウォーキング大会:第1回(203人)【239人】/第2回(186人)【190人】/第3回(229人)【217人】/ちょこっとウォーク:7回(801人)【7回(774人)】 ・ウォーキングマップの窓口設置 ・サポーター養成講座:1回(8人)【1回(10人)】 ・スキルアップ講座:2回(47人)【1回(11人)】 ・特定健診の広報紙への掲載:11回【10回】 ・各種健康教室での特定健診・がん検診・骨量検査の周知:33回【15回】	
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	—	—	
自己評価	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング大会:3回(629人) ・あべのちょこっとウォーク:6回(582人) ・サポーター養成講座:1回(13人) ・スキルアップ講座:3回(44人) ・ウォーキングマップの窓口設置 ・特定健診、がん検診の広報紙への掲載:12回 ・各種健康教室での特定健診・がん検診・骨量検査の周知:44回 		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 ・ウォーキング大会への参加者は60歳未満が2.7%と低く、区民モニターへのアンケート結果では運動を行っていない割合が18～34歳で42.4%、35～64歳で46.9%、65歳以上で28.6%となっており、65歳未満の運動の習慣化が課題です。
	業績目標の達成状況	ウォーキング大会参加者のうちウォーキング大会が運動の習慣化につながると答えた方の割合95.5%		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 ・若い年齢層が参加しやすいウォーキング大会となるよう、内容及び周知方法の改善を図ります。 ・若い年齢層が参加できるウォーキング以外の事業についても取り組みます。
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

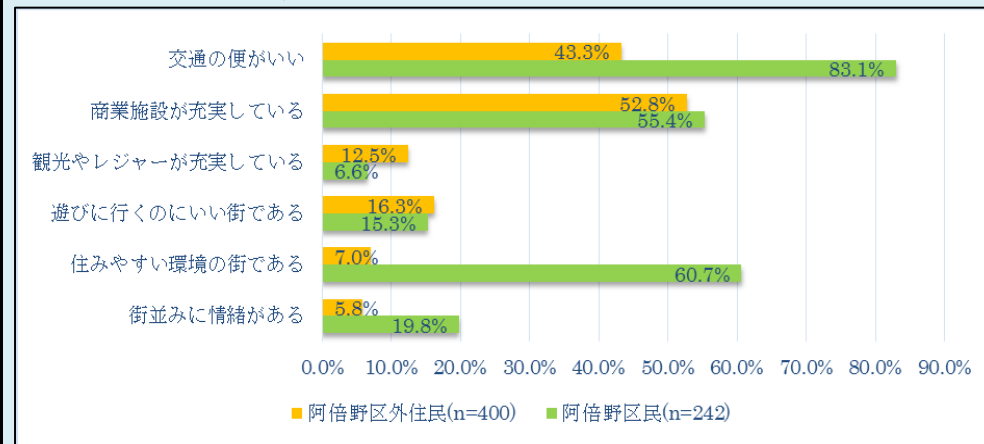
【魅力と活力にあふれるまち】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

地域や関係機関等の協働により、人・団体等が交流しにぎわいとうるおいのあるまちづくりと地域住民による自律的な地域運営と豊かなコミュニティの形成による活力あふれるまちづくりをめざします。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・大阪市南部の玄関口であるあべの・天王寺ターミナルには多くの店舗が集中しており、他区や市外からの来街者が多い。平成26年3月に日本一の高層ビルがグランドオープンしたことにより、ターミナル周辺への他地区からの集客力が向上しています。
- ・阿倍野再開発地区の大型商業施設の開業や、日本一の高さを誇る複合ビルの建設などをきっかけに阿倍野に関心を持つ人や、阿倍野を訪れる人々は増加していますが、あべの・天王寺ターミナルで滞留するケースが多く、区内他地域のにぎわい創出には至っていません。
- ・平成27年9月 区内在住者、区外在住者を対象に「阿倍野区の魅力に関するアンケート」を実施
- ・平成28年度 阿倍野区魅力発信PR冊子「きてみてあべの」を作成（平成29年4月より区内各所にて配架開始）
- ・平成29年7月 阿倍野区内の魅力ある施設やイベント等について、区内外に対し情報発信を行うSNS情報発信実行委員会（準備会）を組織し、9月からは実行委員会メンバーを公募するとともにSNSを活用した情報発信を開始



- ・地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じる割合（地域活動協議会へのアンケート）：46.7%（27年度）、46.9%（28年度）
- ・地域活動協議会補助金を活用し、地域のまちづくりのために実施された事業数：9地域101事業（26年度）、10地域113事業（27年度）、10地域129事業（28年度）
- ・「地域活動協議会」を知っている区民の割合：14.4%（27年度）、14.6%（28年度）、18.0%（29年度）

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・阿倍野区には魅力ある施設やイベント・文化等が多く存在していますが、「阿倍野区の魅力掘り起こし事業における調査」において実施した「阿倍野区の魅力に関するアンケート」結果から阿倍野区の「強み」「課題」を分析したところ、それらを活かした阿倍野区全体としてのつながりや魅力発信が行えていない状況にあります。
- ・現状では、地域活動を行うにあたって必要な人材が十分ではありません。
- ・地域活動協議会の認知度が低く、広報活動の強化する必要があります。
- ・地域コミュニティ活性化のための事業の充実する必要があります。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・「阿倍野区の魅力に関するアンケート」の結果、阿倍野区が強化・PRすべき要素として阿倍野区民と阿倍野区外住民の意識・認識を融合することで、①都市としての利便性、②情緒ある街並みと都会的な街並みの融合、③駅周辺施設・イベントを活用した観光・レジャー機能の強化が必要とされています。
- ・地域団体等の課題解決に向け組織運営、人材育成などの支援する必要があります。
- ・地域活動協議会の活動に対して財政的支援が不可欠であると考えます。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- ・あべの・天王寺ターミナル周辺において、各商業施設でストリートライブ等の音楽イベントが定期的開催され、地域団体によるあべの歩道橋のイルミネーションによるライトアップの実施など、地域主導によるまちの魅力づくりが引き続き進められるとともに、阿倍野区内の魅力ある施設やイベント等を区内外に向けて情報発信を行うことにより、にぎわい創出につながっていると考えます。今後も継続的に、地域と連携して情報発信を行えるよう取り組みを進めていきます。
- ・地域活動協議会補助金の交付をはじめ、中間支援組織（阿倍野区まちづくりセンター）を活用した地域活動協議会への支援を進めており、区内全10地域の地域活動協議会においては、地域課題解決のための各種取組が実施されており、住民主体のまちづくりが進み一定の成果は得られたものと考えます。しかし、新たな担い手不足などの課題もあるため、引き続き各地域活動協議会の特色やニーズにあった支援を行ってまいります。

めざす成果及び戦略 4-1 【にぎわいとるおいのあるまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年を念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>	
	地域住民・企業等と協働し、阿倍野区の魅力を活用して取り組んでいる状態		区内外から多くの人が集いにぎわいに溢れ、美しうるおいのあるまちづくりをめざすため、課題解決に向けた事業を実施します。	
計画	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>			
	※重点目標 事業実施後、魅力を活用して事業展開ができたと感じる企業等の割合:32年度までに80%以上			
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカムの達成状況		前年度	個別 全体
	事業実施後、魅力を活用して事業展開ができたと感じる企業等の割合:100%		—	A A
			A:順調 B:順調でない	
戦略の進捗状況	b	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
		a:順調 b:順調でない		—

具体的取組4-1-1 【阿倍野区の魅力創造事業】★

		28決算額	2,053千円	29予算額	2,049千円	30予算額	1,552千円
計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム)				
	○阿倍野区のさらなるにぎわいを創出するため、区内の魅力ある施設やイベント・文化を最大限活用し「阿倍野区=魅力的なまち」というブランドづくりを行い、効果的に情報発信するなど戦略的なマーケティングを推進します。 ・阿倍野区の魅力ある施設やイベント・文化などを継続して効果的に情報発信するため、平成29年度から取り組んでいるSNSを活用した阿倍野区の魅力発信を積極的に進めます。(随時) ・情報発信実行委員会が30年度以降自立して組織運営が行えるよう、企業や団体等と連携し阿倍野区の魅力発信に資する事業を実施します。(連携企業・団体等 2者以上 魅力発信事業2回以上)		各事業終了後、魅力の発信ができたと感じる情報発信実行委員の割合80%以上 【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。				
計画			前年度までの実績				
			平成25年度:平成25年度区民モニターアンケートにおいて、阿倍野区のにぎわい創出についての意識調査を実施 平成26年度:区政会議住環境部会において阿倍野区の魅力掘り起こしをテーマに意見聴取 平成27年9月:「阿倍野区の魅力に関するアンケート」を実施 平成28年度:公募型プロポーザルによる事業者を選定し、阿倍野区の魅力発信する冊子を作成するとともに継続して取り組む事ができる事業計画(案)を作成 平成29年度:魅力発信PR冊子を区内各所に配架。新たに立ち上げた情報発信実行委員会により区内の魅力をSNSを活用して発信するとともに、まち歩きイベントを企画・実施				
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		—				
自己評価	戦略に対する取組の有効性	—	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
		○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	—				
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	・魅力創造事業実行委員会によるInstagram及びフェイスブックを活用した阿倍野区の魅力情報発信を行いました。 SNS運用状況 発信回数:488回【Instagram】フォロワー数:1,529【フェイスブック】フォロワー数:525 ・団体や企業等と連携し事業を実施しました。(連携事業者 6者・6回) 4月29日「どっぷり、昭和町。」主催「どっぷり、昭和町。実行委員会」 5月12日「縁活」とのコラボ 主催「縁活事務局」 10月8日あべのカーニバルでのまちセンとの連携した出展「まちづくりセンター」 11月4日あきない祭りでのイベント補助「阿倍野区商店会連盟」 3月9日あべのつらす「JR西日本」 3月17日まちFUNまつり「ままちっち」		—				
	業績目標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	魅力の発信ができたと感じる情報発信実行委員の割合95.0%		① (i)	—			
自己評価	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)				

28決算額 41,678千円 29予算額 6,898千円 30予算額 5,948千円

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）
	<p>○あべの筋について、阪堺電車の軌道緑化などの魅力的な景観を活用するとともに、整備の進む東側の歩車道についても回遊性を高めるための魅力的な空間形成を行ない、阿倍野を訪れる人に大阪のランドマークとしてアピールします。</p> <p>・あべの筋を魅力ある空間として維持発展させていくため、あべの筋沿道周辺の地域によるまちづくり団体の組織化(TMO)等を支援し、まちの環境向上の取組を行います。(年4回)</p> <p>・地域団体・企業等による音楽イベントやイルミネーション等、継続的ににぎわいづくり等の取組を支援します。(各取組み年1回)</p>		<p>阪堺軌道上町線の当該区間を芝生化することにより「まちが魅力的になった」と思う区民の割合80%以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>平成27年度 軌道敷芝生化工事を一部実施するとともに、あべの筋東側歩車道について、快適な歩行者空間の形成などに配慮した整備設計を行いました。</p> <p>平成28年度 阪堺軌道敷への芝生の植生が完了</p> <p>地域団体・企業等による音楽イベントやイルミネーション等、にぎわいづくり等の取組に対しての支援を行いました。(3回)</p> <p>まちづくり団体の組織化に向けて、区役所が先行して収入確保の取組みの一環である、あべの筋西側等の駐輪場施設等で広告事業を実施しました。</p> <p>平成29年度 収入確保の取組みとして広告事業エリアを拡大</p> <p>業績目標(中間アウトカム)29年度達成状況【28年度達成状況】</p> <p>・「まちが魅力的になった」と思う区民の割合:78.8%【78%】</p>
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	—	○: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>・年間を通じて、阪堺軌道上町線軌道敷の芝生維持管理を行いました。</p> <p>・まちづくり団体の組織化に向け、地域団体・企業等によるあべの筋清掃活動(4回)や音楽イベント・イルミネーション等(2回)のにぎわいづくり等の取組みへの支援を行いました。</p>		あべの筋の阪堺電車軌道敷の芝生化は完了したものの、引き続きあべの筋東側の車道整備工事が長期化していることもあり、まちが魅力的になったと実感いただける方の割合が業績目標に達することができませんでした。
	業績目標の達成状況	「まちが魅力的になった」と思う区民の割合は72.7%	② (i)
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成		「まちが魅力的になった」と思う区民の割合は72.7%でしたが、「あべの筋や阿倍野歩道橋での美化活動、歩道橋でのイルミネーションなどの取組を続けることにより、まちの環境向上やにぎわいづくりにつながる」と思う区民の割合は81.5%であったことから、今後も継続して地域団体・企業等が行うまちの環境向上やにぎわいづくりなどの取組みへの支援を行います。
	戦略に対する取組の有効性	○	○: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)
			さらに、あべの筋とその周辺地域を路上喫煙禁止地区として指定し、歩行者が快適に通行できる環境を整備するとともに、まちのイメージアップを図ります。

28決算額 901千円 29予算額 920千円 30予算額 878千円

取組内容		業績目標（中間アウトカム）	
計画	○花づくり拠点で種から苗を育て、小学校・保育所などの2次育成場所で開花まで育成し、公園・商店街などの最終配置場所にも配置を行います。 ・種まき：年2回、花苗配置数：24,000株 ・参加団体数45団体、2次育成場所数21か所、最終配置場所数48か所	・参加団体数39団体を確保 【撤退基準】 ・参加団体数が現状の80%未満であれば、事業を再構築します。	
		前年度までの実績 29年度実績(3月末現在)【28年度実績】 ・種まき：年2回【年2回】、花苗配置数：20,976株【17,232株】 ・参加団体数43団体【42団体】、2次育成場所数21か所【21か所】、最終配置場所数48か所【45か所】	
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	○ ○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)	
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	・種まき：年2回、花苗配置数：19,224株 ・参加団体数42団体、2次育成場所数21か所、最終配置場所数44か所		—
	業績目標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	参加団体数42団体(1団体増、2団体減)	① (i)	
①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成		—	
戦略に対する取組の有効性	○ ○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)		

めざす成果及び戦略 4-2 【地域の自主的なまちづくりの活動支援・促進】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> さまざまな活動主体が協働・連携し地域活動が実施されている状態		戦略<中期的な取組の方向性> 身近な地域の課題等の解決に向け、さまざまな活動主体の協働・連携による地域活動を支援します。		
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 校区等地域において、様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると感じている区民の割合:32年度までに60%以上				
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
	アウトカムの達成状況		前年度	個別	全体
	校区等地域において、様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると感じている区民の割合:46.2%	35.0%	A	A	—
戦略の進捗状況	a	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須		—	
		A:順調 B:順調でない			
		a:順調 b:順調でない			

具体的取組4-2-1 【地域活動協議会活動支援事業】

		28決算額	20,144千円	29予算額	22,030千円	30予算額	22,030千円
計画	取組内容	業績目標 (中間アウトカム) 全ての地域活動協議会が補助金を活用し事業実施 【撤退基準】 地域活動協議会補助金を活用しない地域活動協議会があれば事業を再構築します。					
	○校区等地域を範囲として、特定分野の活動団体の活動対象とならない活動分野を補完しながら地域経営を行う準行政的機能を有する地域活動協議会の活動及び運営経費の一部を補助します。 ・地域活動協議会補助金交付(10地域)	前年度までの実績 補助金を活用した地域活動協議会数(事業数) 28年度 10地域中10地域(129事業) 29年度 10地域中10地域(137事業)					
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)				
自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
	区内全10地域に対して地域活動協議会補助金を交付(143事業実施)	—					
	業績目標の達成状況 地域活動協議会補助金を活用した地域活動協議会数 10地域 /10地域	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)				

28決算額 16,152千円 29予算額 14,605千円 30予算額 14,155千円

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）	
	<p>○中間支援組織(まちづくりセンター)を活用した地域活動協議会の自律運営にかかる支援を実施します。特に、若い世代など幅広い市民参画の促進、新たな担い手の発掘や地域における担い手のスキルアップに向けた支援、自主財源の獲得に向けた支援など地域の特色やニーズに合わせた支援を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報サポート・会計サポート(10地域) ・地域活動協議会についての周知事業(広報紙の発行、SNSの活用) ・担い手確保の発掘や地域の横のつながり、企業や他団体との連携を目的とした交流の場の提供 		<p>・まちづくりセンターは地域活動に役に立っていると感じる利用者の割合65%以上</p> <p>・地域活動協議会において、地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じる人の割合55%以上</p> <p>【撤退基準】上記目標が45%未満であれば、事業を再構築します。</p>	
中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③: 撤退基準未達成</p>		—	
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題	
	—		※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
自己評価	取組実績		課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手発掘プロジェクト(年1事業) ・広報サポート・会計サポート(10地域) ・地域活動フォーラム(1回) ・広報あべの(9月号 各地域活動協議会紹介記事) ・広報紙の発行(もっと身近に地活協ポケットマニュアル) ・担い手確保の発掘や地域の横のつながり、企業や他団体との連携を目的とした交流の場として「あべのほっとカフェ」を開催(1回) 		—	
自己評価	業績目標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<p>・まちづくりセンターは地域活動に役に立っていると感じる利用者の割合 83.3%</p> <p>・地域活動協議会において、地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じる人の割合 56.3%</p>		① (i)	
自己評価	戦略に対する取組の有効性		改善策	
	○		※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	

重点的に取り組む主な経営課題

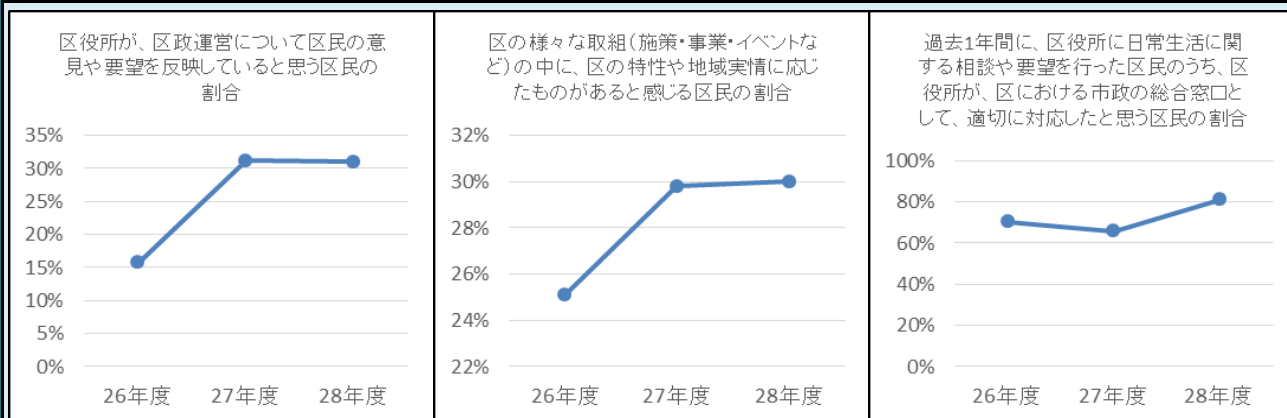
経営課題5

【区民から信頼される区役所づくり】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

区民の意見やニーズを的確に把握し、施策・事業に反映します。また、区民・利用者の視点に立った質の高いサービスの提供や情報発信の強化など効果的・効率的な区政運営をめざします。

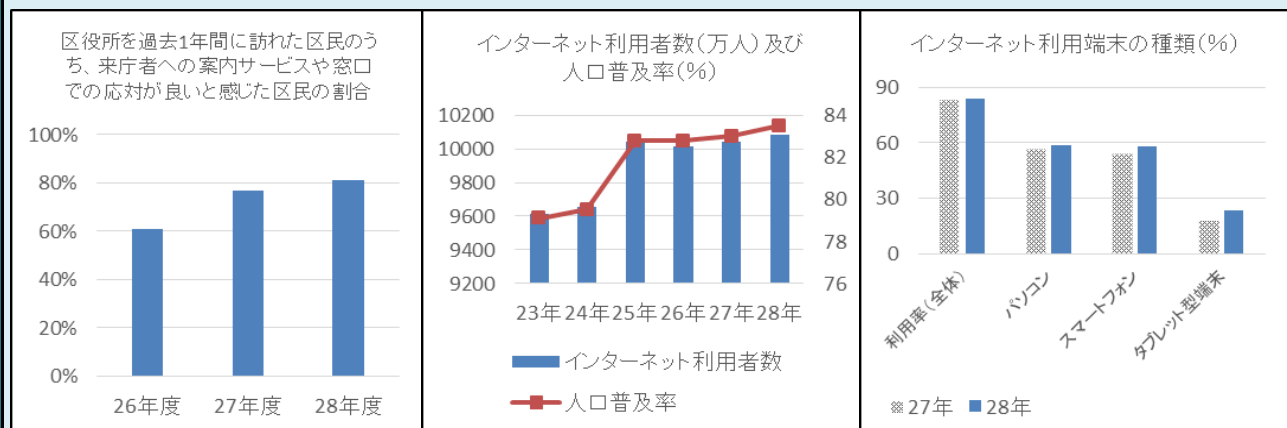
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）



(出典: 区民モニターアンケート)

(出典: 区民モニターアンケート)

(出典: 区民モニターアンケート)



(出典: 区民モニターアンケート)

(出典: 総務省平成29年版情報通信白書)

(出典: 総務省平成29年版情報通信白書)

- ・区政会議開催数(部会含む)
平成25年度: 11回、平成26年: 11回、平成27年度: 7回、平成28年度: 12回
- ・区教育会議開催数
平成27年度: 3回、平成28年度: 5回
- ・全市共通で実施された「各区に共通する区政運営に関する事項」および「来庁者等に対する窓口サービス」にかかる格付け結果
「来庁者等に対する窓口サービス」(星3つ～星なしの4段階評価)
平成25年度: 星1つを獲得(3.0点)、平成26年度: 星2つを獲得(3.5点)、平成27年度: 星2つを獲得(3.5点)、平成28年度: 星2つを獲得(3.6点)

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・インターネット利用人口普及率が増加し、中でもスマートフォン・タブレット端末の利用率が高くなってきており、デジタルツールによる情報収集が日常的なものになりつつあります。
- ・区民の意見やニーズの把握に、より幅広い層への区民アンケートの実施や多様な相談機会を設ける必要があります。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・区政会議をはじめとする区民の意見を区の様々な取組(施策・事業・イベントなど)の中に反映していますが、区の特性或地域実情に応じた取組や区民への情報発信をさらに強化する必要があります。
- ・区民が情報を収集するための方法・ツールが多様化しており、情報発信のターゲットや手法を見極める必要があります。
- ・区民の視点で窓口対応や事業を展開できる組織の構築と人材の育成する必要があります。
- ・職員一人ひとりの意識改革、能力の向上および職場の風土改革を図るがあります。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- ・区民アンケートにより区民の意見やニーズを把握するとともに、区政会議での意見・提案を事業に反映できましたが、今後も区の特性或地域実情に応じた取組に努めてまいります。
- ・情報収集の手法が多様化している中で、さまざまな情報発信ツールを活用して情報発信しましたが、まだまだ周知不足であり、これまでの周知活動に加え、主な情報発信ツールである広報紙について、1か月全戸配布を実施し、個別配布の需要の掘り起こしを行うとともに、Webツールもこれまで以上に活用し、より確実に情報が届くよう取り組みます。
- ・区民からの意見・評価を把握し改善につなげる取組みや職員の実務能力を向上させる取組みにより、区民にとってわかりやすく利用しやすい窓口対応に努め、大阪市の「来庁者等に対する窓口サービス」の格付け結果において、5年連続で「星2つ(民間の窓口を上回るレベル)」を獲得することができました。
- ・職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組み等により、職員一人ひとりの行政のプロとしての意識向上につなげることができたと考えます。

めざす成果及び戦略 5-1 【区民の意見やニーズに的確に対応する仕組みづくりと発信力の強化】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>	
	区民の意見やニーズを的確に把握し、施策・事業に反映できている状態		区政会議などを活用し、区における施策や事業について、企画・計画段階でのご意見、その成果にかかる評価に対してのご意見、表面化しにくいものも含めた多様な区民の意見やニーズを的確に把握し、施策・事業に反映します。また、区民が必要な区政に関する情報をきめ細やかに発信します。	
自己評価	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	区政運営について区民の意見などを施策・事業に反映していると感じる区民の割合:32年度までに70%以上		—	
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体
	区政運営について区民の意見などを施策・事業に反映していると感じる区民の割合:37.3%	30.5%	B	B
	A:順調 B:順調でない			
戦略の進捗状況	b	a:順調 b:順調でない		—
今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須				

具体的取組5-1-1 【区の広報事業】

28決算額 12,040千円 29予算額 13,705千円 30予算額 14,154千円

計画	取組内容		業績目標 (中間アウトカム)	
	○区民の必要とする区政情報が、必要なツールで届くよう、情報発信を行います。 ・広報紙:毎月46,000部発行 ・ホームページ:月平均30件 ・ツイッター:月平均250件 ・AR,YouTube動画:毎月配信 ・広報掲示板:月平均20件 ・ケーブルテレビでの情報発信:月平均8回		区政情報を必要とする区民が、必要なツールで情報を入手できていると感じる割合60%以上 【撤退基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。	
自己評価	前年度までの実績		業績目標 (中間アウトカム)29年度達成状況【28年度達成状況】	
	【28・29年度実績】 ・区広報紙の発行①広報紙「広報あべの」発行部数(45,000⇒45,500)②新聞折込部数(36,190⇒35,540)③新聞未購読世帯への個別配付数(2,918⇒3,705)④世帯配付率(約77%⇒約77%)【28年9月号⇒30年3月号実績】 ・WEBツールの活用①区ホームページアクセス数(53,605)【30年2月実績】②ツイッターフォロワー数(3,062)【30年3月現在】③AR,YouTube動画毎月配信 ・広報掲示板ポスター掲示件数月平均件数(約17件⇒約20件)		・区政情報を必要とする区民が、必要なツールで情報を入手できていると感じる割合:46.6%【58.0%】	
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	—	—	
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	・区広報紙の発行①広報紙「広報あべの」発行部数(45,500⇒46,000)②新聞折込部数(34,140)③新聞未購読世帯への個別配付数(3,810⇒4,215)④世帯配付率(約74%⇒約74%)【30年4月号⇒31年3月号実績】 ・WEBツールの活用①区ホームページアクセス数(54,489)【31年3月実績】②ツイッターフォロワー数(3,509)【31年3月現在】③AR,YouTube動画毎月配信 ・広報掲示板ポスター掲示件数月平均約29件【30年度実績】		必要な情報を入手できていると感じている割合は、65歳以上の方は56.8%(29年度約54%)、若年層が36.3%(29年度約30%)であり、いずれも29年度より上昇したものの依然として若年層が低くなっています。	
自己評価	業績目標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	区政情報を発信しているツールのいずれかで、必要な情報を入手できていると感じている区民の割合:49.7%		② (i) イベント会場や広報掲示板、行政情報モニター等での情報発信ツールの周知活動に加え、主な情報発信ツールである広報紙について、1か月全戸配布を実施し、個別配布の需要の掘り起こしを行うとともに、Webツールもこれまで以上に活用し、より確実に情報が届くよう取り組みます。	
戦略に対する取組の有効性		○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

具体的取組5-1-2

【区の広聴事業】

28決算額 1,825千円 29予算額 2,142千円 30予算額 2,142千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<p>○区民への説明責任を果たしていくとともに、いただいた意見を施策へ反映させることを目的として、区政に関する区民からの意見・アイデア・要望等を常時受け付けます。</p> <p>また、区の施策や事業などについての意見やニーズを把握し、区民の客観的な評価を得るなど、施策立案にかかる基礎データを収集するためにアンケートを実施します。</p> <p>・区民アンケート調査の実施（年2回）</p>	<p>区民モニターのアンケート回収率30%以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>上記目標が達成できなければ、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>29年度実績【28年度実績】</p> <p>アンケート2回【アンケート2回】</p> <p>回収率第1回31.35% 第2回28.46%【回収率 第1回 33.33% 第2回 30.57%】</p>
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③: 撤退基準未達成</p>	—
戦略に対する取組の有効性	—	
自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>第1回アンケート: 平成30年9月実施</p> <p>第2回アンケート: 平成31年2月実施</p> <p>業績目標の達成状況</p> <p>第1回アンケート: 回答者数1,058名(回収率27.55%)</p> <p>第2回アンケート: 回答者数1,175名(回収率30.06%)</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③: 撤退基準未達成</p>	<p>第1回アンケートの回収率が30%以下となり、業績目標を下回りました。</p> <p>改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須</p> <p>区の施策や事業などについて周知を図り、各事業に興味を持ってアンケートに回答いただけるような設問や回答率向上にむけた手法等を検討します。</p>
戦略に対する取組の有効性	○	○: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組5-1-3

【区政会議運営事業】

28決算額 519千円 29予算額 1,049千円 30予算額 1,014千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<p>○区政におけるさまざまな課題や区政に関する評価などについて意見を述べる仕組みである区政会議を運営します。</p> <p>・全体会及び各部会の開催: 各3回程度</p>	<p>区政会議での意見・提案をもとに反映した施策・事業1事業以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>上記目標が達成できなければ、会議運営手法を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>29年度実績【28年度実績】</p> <p>・全体会の開催: 3回【3回】 各部会の開催: 各2回【各3回】</p> <p>業績目標（中間アウトカム）29年度達成状況【28年度達成状況】</p> <p>・区政会議での意見・提案を反映した事業: 6事業【4事業】</p>
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③: 撤退基準未達成</p>	—
戦略に対する取組の有効性	—	
自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	<p>・全体会及び各部会の開催: 全体会3回(6/28、10/3、12/12)、部会各2回(7/23、7/24、7/26、8/20、8/29、8/29)</p> <p>業績目標の達成状況</p> <p>区政会議での意見・提案をもとに反映した施策・事業: 5事業</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③: 撤退基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須</p>
戦略に対する取組の有効性	○	○: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 5-2 【質の高いサービスの提供】

計画	めざす状態<概ね3~5年間に念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>	
	区民ニーズに即応し、効果的・効率的に業務運営されている状態		利便性の高いサービスを提供できるよう、区民にとってわかりやすく利用しやすい窓口の実現に取り組みます。 また、改革を推進する職員づくりを進めていくため、職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組を進め、より区民から信頼される自律的な職員の育成と区民サービスの向上を進めます。	
計画	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>			
	効果的・効率的な業務運営に向け、区の実情や特性に応じて、区役所の取組が進められていることを知っている区民の割合:32年度までに70%以上			
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカムの達成状況		前年度	個別
	効果的・効率的な業務運営に向け、区の実情や特性に応じて、区役所の取組が進められていることを知っている区民の割合:68.2%		27.2%	A
	今後の対応方向		※有効性が「イ」の場合は必須	
戦略の進捗状況	b	A:順調 B:順調でない		
		a:順調 b:順調でない	-	

具体的取組5-2-1 【区民サービス向上】

28決算額 - 円 | 29予算額 - 円 | 30予算額 - 円

計画	取組内容		業績目標 (中間アウトカム)	
	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の実務能力を向上させる取組を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・職員力向上研修の実施:年1回 ○区民からの意見や評価を把握し改善につなげる取組を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・来庁者アンケートの実施:年2回 ・今月の目標の実施:月1回 ○職員間の情報共有の取組を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・庁内情報誌「あべのいちばん」の発行:月1回 		区役所を過去1年間に訪れた区民のうち、来庁者への案内サービスや窓口での対応が良いと感じた区民の割合80%以上 【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。	
自己評価	取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の実務能力を向上させる取組 <ul style="list-style-type: none"> ・職員力向上研修の実施:年1回 ○区民からの意見や評価を把握し改善につなげる取組 <ul style="list-style-type: none"> ・来庁者アンケートの実施:年2回 ・今月の目標の実施:月1回 ○職員間の情報共有の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・庁内情報誌「あべのいちばん」の発行:2ヶ月に1回 		-	
	業績目標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
自己評価	区役所を過去1年間に訪れた区民のうち、来庁者への案内サービスや窓口での対応が良いと感じた区民の割合:81.1%		① (i)	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成		-	
自己評価	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	
	-		-	

具体的取組5-2-2

【改革を推進する職員づくり】

		28決算額	- 円	29予算額	- 円	30予算額	- 円
計画	取組内容	○職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組みを進めます。 ・各課・担当の継続的な5S活動・改善活動の実施に対する支援 ・各階層別改善プログラムの実施：通年 ○業務におけるPDCAサイクルの徹底 ・阿倍野区実施の事業報告「あべのレポート」の発行：月1回					
	業績目標（中間アウトカム）	常に行政のプロとしての意識を持ち業務に取り組んでいる職員の割合40%以上 【撤退基準】 上記目標が20%未満であれば、事業を再構築します。					
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成	—					
	戦略に対する取組の有効性	—	○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)				
自己評価	取組実績	○職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組 ・区民サービス向上検討委員会(庶務担当係長)の開催：4回 ・若手職員人材育成研修(新採1～4年目職員)の実施：7回 ○業務におけるPDCAサイクルの徹底 ・「あべのレポート」の発行：12回(月1回)					
	業績目標の達成状況	常に行政のプロとしての意識を持ち業務に取り組んでいる職員の割合：95.9%					
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)					

具体的取組5-2-3

【職員のモチベーション向上】

		28決算額	- 円	29予算額	- 円	30予算額	- 円
計画	取組内容	○コミュニケーションが取れている組織風土を醸成する取組を進めます。 ・あべのんサンクスレターの実施：通年 ・職員表彰の実施：年1回 ・オフサイトミーティングの実施：年2回 ・職員意識アンケート調査の実施：年1回					
	業績目標（中間アウトカム）	仕事にやりがいを感じている・ある程度感じている職員の割合80%以上 【撤退基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。					
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成	—					
	戦略に対する取組の有効性	—	○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)				
自己評価	取組実績	○コミュニケーションが取れている組織風土を醸成する取組 ・あべのんサンクスレターの実施：通年 ・職員表彰の実施：年1回 ・オフサイトミーティングの実施：年1回 ・職員意識アンケート調査の実施：年1回					
	業績目標の達成状況	仕事にやりがいを感じている・ある程度感じている職員の割合：72.8%					
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)					